

伊藤仁斎 儒者。近世思想が段階的に深化して行く元になった古義学を創始した。

いとうじんさい

紫衣勅許無効1627 = 京都上京東堀川で、伊藤長勝(号は了室)と那倍(連歌師の里村氏)の子に生まれる。_伊藤家は京都の上層町衆で、親族、姻族には角倉了以、里村紹巴、本阿弥光悦、尾形光琳・乾山らがいる。

徳川秀忠没・1632 = 5歳 :

東照宮完成・1636 = **9歳** :

島原の乱始・1637 = 10歳 : 師について初めて漢文の読み方を習い、_「大学」に衝撃を受ける一方、非凡な詩を作り、周囲を驚かせる。仁斎の青年時代は儒学で生計を立てることが困難だったので、親族はみな医術を学ぶことを強いた。仁斎はこれに従わず、

家光鎖国完成1641 = 14歳 :

初の高札・・・1642 = 15歳 : この頃から_独学同様に朱子学を学び始め、

とくに超感覚的な根源的實在の認識を志す理気二元論に傾倒する。

・・・・・・・1645 = **18歳** :

徳川家光没・1651 = 24歳 :

野郎歌舞伎始1653 = 26歳 :

新利根川完成1654 = **27歳** : 朱子の「敬斎箴」を読んで感銘、自らを敬斎と称しするようになり、「太極論」、

・・・・・・・1655 = 28歳 :

「性善論」「心学原論」を著すほど朱子学に傾倒するが、自らの主観的直観的思考と矛盾することに悩み、病氣とノイローゼで家督を次弟の七左衛門に譲って独居、

仏教や道家の説に傾斜して万物を空とし、儒教道徳の価値を認めなくなるが、

明暦の大火・1657 = 30歳 :

人身売買禁止1658 = 31歳 :

朱舜水帰化・1659 = 32歳 :

*感覚できるものだけを實在とする気一元論の立場に至り、「論語」を軸に儒教を再肯定、仁斎と号する。
_有志と儒教を共同研究する場として同志会を結成。

松平信綱没・1662 = 35歳 :

殉死の禁止・1663 = **36歳** :

大地震と次弟の死を契機に家に戻って*私塾{古義堂}を開くとともに、「論語古義」の執筆に着手、

筋力にあって峻烈で知られる朱子学者山崎闇斎の私塾とは対照的に、弟子らと同等の立場で切磋琢磨、

酒井忠清大老1666 = 39歳 :

ジャクインの乱 1669 = 42歳 :

・・・・・・・1670 = 43歳 :

このころまでに、尾形嘉那と結婚する。
長男亀丸生まれる。のち東涯と号し、儒学者として大成する。

東南海運確立1672 = **45歳** :

越後屋オブン 1673 = 46歳 :

・・・・・・・1674 = 47歳 :

京都の大火に罹災、伊藤家全焼する。家財を捨て「論語古義」の草稿の1部だけを持って逃げた。京極の大恩寺に仮住いする。母那倍没する。

父畏勝(了室)が死去。

藤十郎登場・1678 = 51歳 :

次女出産後、妻嘉那が死去。

徳川綱吉將軍1680 = 53歳 :

天下一禁止・1681 = **54歳** :

好色一代男・1682 = 55歳 :

八百屋お七・1683 = 56歳 :

堀田正俊暗殺1684 = 57歳 :

このころ、瀬崎総と再婚。

痢病にかかり、一時重態となる。

*執筆し続けてきた「論語古義」とともに、「孟子古義」「中庸發揮」などの自筆本が成立する。

_以後、講義を続け、合間に旅行しながら、

門人も増え続け、ピーク時には3000人に達したともいわれる。

湯島聖堂・・・1690 = **63歳** :

芭蕉+師宣没 1694 = 67歳 :

生類憐令頂点1695 = 68歳 :

・・・・・・・1699 = **72歳** :

赤穂浪士切腹1703 = 76歳 :

自作歌集「和歌愚草」を編集する。

御蔭参流行・1705 = 78歳 :

淡疾を病み、_没した。

足田啓佑「儒者」、「人づくり風土記(京都)」、「没年日本史人物事典」、「日本の群像」、平凡社百科事典、中公シリーズ「日本の名著」、日本の古典名著、